



1 学校の教育目標

(1) 教育目標=目指す生徒像

- ◎ 自ら考え学習する生徒（知）…探究心・自律学習能力
- 思いやりのある礼儀正しい生徒（徳）…共感性・マナー・人間関係形成
- 正義を愛し、心豊かな生徒（徳）…倫理観・感性・道徳心
- 体を鍛え、くじけない生徒（体）…心身の健康・忍耐力（レジリエンス）
- 進んで社会に奉仕する生徒（公）…社会参画意識・奉仕の精神

(2) 教育理念

学校の教育目標を具現化するため、次の教育理念をメッセージとして掲げる。

自立・貢献そして挑戦～知・徳・体の調和を礎に、新しい時代を切り拓く生徒の育成～

- ① 自立（自分を律し、歩む力）
関連する教育目標：「自ら考え学習する生徒」
- ② 貢献（他者や社会のために動く力）
関連する教育目標：「思いやりのある生徒」「正義を愛する生徒」「社会に奉仕する生徒」
- ③ 挑戦（限界を決めず、挑む力）
関連する教育目標：「くじけない生徒」「体を鍛える生徒」

(3) 目指す学校像（ビジョン）

- ① 「主体的な学び」が躍動する学校（知・自立）
- ② 「共感と信頼」が育つ温かい学校（徳・貢献）
- ③ 「挑戦と成長」を支えるたくましい学校（体・挑戦）
- ④ 「地域とともに歩み」未来を創る学校（公・貢献）

(4) 目指す教職員像

- ① 人権尊重の理念を理解し、生徒のために深い愛情を注ぐ教職員
- ② 真摯に研究と修養に励み、教育観を磨き授業改善等に活かす教職員
- ③ 学校組織の一員としての自覚と協働意識をもち、職務を遂行する教職員
- ④ 熱意と使命感をもち、生徒・保護者、そして地域から信頼される教職員

2 中期的経営目標と方策

(1) 自ら課題を見つけ、共に高め合いながら、確かな学力を育む学校

- ① 学力定着プロジェクトチームで各種調査結果を分析し、全教科で「身に付けさせるべき汎用的スキル（ノート術、要約力等）」を統一して指導する。
- ② 1人1台端末を使い、ICTを基盤とした対話的学びを授業に取り入れ、思考ツール（マインドマップ等）で意見を可視化し、リアルタイムで共有・相互評価する授業スタイルを確立する。

- ③ 放課後学習教室等を活用して、「はちおうじっ子ミニム」の確実な定着を目指し、生徒一人一人が基礎的・基本的な学習内容を習得し、自信をもって学習に取り組み、社会生活を送れるようにする。
- (2) 一人一人の個性を尊重し、誰もが安心して自分らしく成長できる学校
 - ① 週1回のいじめ対応の時間や教育相談担当者会議等を活用し、小さな変化を早期に発見し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を迅速化する。
 - ② ユニバーサルデザイン授業の標準化を進め、視覚的な指示、スモールステップでの課題設定など、発達特性に配慮した指導法を「すべての教室」の標準とする。
 - ③ 別室指導教室に ICT 環境を完備し、教室に入りづらい生徒もオンラインで授業参加や課題提出ができる仕組みを定着させる。
- (3) 地域を愛し、多様な人々と協働して、持続可能な社会を創る学校
 - ① 由井中グループ（4校）との連携強化を図り、生徒会・児童会・担当教員同士の会議を定期的に開催し、小中同時期の「あいさつ運動」や「地域清掃」等を企画・運営する。
 - ② 地域連携授業プラスワンの質的向上を進め、地元の企業と連携し「地域課題解決型」の探究学習を総合的な学習の時間に導入する。
 - ③ 地域主催行事への参加を奨励し、その活動プロセスや成果を「キャリア・パスポート」や通知表へ積極的に反映し、自己有用感を高める。

3 今年度の重点目標と方策

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現＝プロアクティブ（確かな学力の育成：自ら学習する生徒の育成）
各種調査結果に基づいた組織的な授業改善により、生徒の学力定着と自立的学習力を育む。
 - ① 学力定着プロジェクトチームを中心に課題克服のための授業改善を全校体制で実施する。
 - ② 年度当初に各教科で授業ガイダンスを行い「ノートの取り方」「評価基準」を明示し、学習の見直しをもたせ、より主体的に授業や家庭学習に取り組めるようにする。
 - ③ ICT 機器等を用いて、全員が意見発信できる双方向型授業の展開と、教員の ICT 研修を継続する。
 - ④ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
 - ⑤ 思考・判断・表現力を高めるための発表や話し合い活動を授業に取り入れ、言語活動の充実を図る。
 - ⑥ 教職員の授業力向上のため、研修を計画的に位置付け実施する。
- (2) 道徳教育と主体的な集団づくり（豊かな心の育成）
生命を尊重する心と自己肯定感を育み、自治能力の高い生徒を育成する。
 - ① 「生命の尊さ」を重点項目とし、多角的な設問やワークショップを実施し「考え、議論する道徳」を実践する。
 - ② 生徒会・委員会による「あいさつ運動」や学校行事等の自主的運営を支援する。
 - ③ 道徳授業地区公開講座では、学校・家庭・地域と一体となり、テーマ別の話し合い等を通して、道徳教育について考え、意見交換を行う。
 - ④ 「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の教職員の率先垂範と発達支持的生活指導を実践する。
 - ⑤ 学級活動では、話し合い活動や係活動、学校行事への取組を充実させ、他者を尊重しながら主体的に協働して課題解決する力や自治的な態度を育む。
- (3) 地域とつながる9年間の学び（キャリア教育の推進）
中1「出会い」中2「関わり」中3「踏み出す」の段階的な学びで、将来の自己モデルを構築する。
義務教育9年間を見通し、地域とともに歩む「はちおうじっ子」を育成する。

- ① 小・中・学年間のキャリア・パスポートの確実な引き継ぎによる成長の可視化を図る。
 - ② 地域連携授業プラスワンを活用し、地域企業や専門家等を講師に招き、将来の自己モデルや進路について主体的に考える機会を設ける。
 - ③ 地域の関係機関と連携し、職場体験や職業講話を通して、生きた勤労観・職業観を育成する。
 - ④ CC 大作戦への生徒の主体的な参加を促し、防災訓練や社会貢献活動を通じた地域の一員としての自覚を醸成する。同時に、学校運営協議会をはじめGSOや各校PTAとの連携を図る。
 - ⑤ テーマ別分科会や学力定着プロジェクトチームでの情報交換を通して、小・中教員間の情報共有・連携を図るとともに生徒の9年間の成長を支援する。
 - ⑥ GIGA スクール構想の実現に向けて、連携小学校と SNS や ICT 機器の適切な活用に関する課題を共有し、デジタルシチズンシップ教育の更なる理解と端末活用の推進を図る。
- (4) 多様性を認め合う支援体制（安全・安心な教育環境の整備等）
誰もが安心できる居場所（心理的安全性の高い教室）をつくり、個に応じた支援を徹底する。
- ① 週1回の「いじめ対応のための時間」を活用し、学年単位で情報共有と記録を徹底することでいじめの未然防止を図る。また、毎学期のいじめ調査やSNSによるいじめ防止指導等計画的に実施し、学校組織での即時対応を図る。（SOS の出し方授業、安全教育指導ほか）
 - ② 週1回の教育相談担当者会議による生徒の実態把握と、連携個別指導計画の活用を組織的に行う。
 - ③ 別室指導教室の活用と、不登校対応巡回教員・SC・SSW との連携を図り、不登校支援の多角化を進める。また、「児童生徒を支援するためのガイドブック」に基づき、不登校対応の早期支援を組織的に行うとともに「つながるプラン」を活用し、居場所づくり・絆づくりを行い、魅力ある学校づくりを推進する。
 - ④ 特別支援学級との交流や副籍交流を計画的に行い、多様性への理解を深める。（インクルーシブ教育）
 - ⑤ 教職員の特別支援教育への理解を深めるため、研修を計画的に位置付け実施する。

4 質の高い教職員組織の実現

- (1) 資質向上のために
 - ① 校内 OJT を組織的・計画的に実施する。
 - ② 学校経営計画に基づき、学年経営計画を作成し運営する。
 - ③ 保護者・地域社会・外部機関との連携を適切に行う。
 - ④ 教育に関して強い使命感と高い識見をもち、指導技術に長けたプロ意識を備える。
 - ⑤ 研究・修養に励み、自己啓発を図ると共に、自己の心身の健康管理に努める。
- (2) 組織的な学校運営のために
 - ① 報告・連絡・相談・確認を徹底し、全職員で共通理解のもと動く。
 - ② 企画調整会議を充実させ機能させる。
 - ③ 起案システムの徹底を図る。
 - ④ 整理・整頓・清掃、物品管理を徹底する。
 - ⑤ コスト意識（時間・物の管理）を向上させる。
- (3) 教育公務員としてのサービスの厳正
 - ① 法令の遵守、信用失墜行為の厳禁。
 - ② 人権感覚を高めるとともに、言語環境も整える。
 - ③ 社会人としての常識と良識をもち、ふさわしい服装・態度を心がける。（生徒の手本）